

# 「野生生物と社会」投稿規定

(2018年12月14日改訂)

## 1. 学会誌の目的と内容

「野生生物と社会」学会は、野生生物と社会に関する自然科学、社会科学、人文学あるいはこれらを横断する学術的な知見を、速やかに学界のみならず広く社会に示すために、学会誌「野生生物と社会」を電子ジャーナルとして刊行する。

論文は、野生生物についての研究（すべての生物種や生態系を対象）、および野生生物と社会の関係に関する研究、以上に関する新しいアプローチや概念の提案、野生生物に関する文化研究と社会科学、合意形成や政策評価などの分野を主に想定し、既成の学問分野にとらわれない創造的な研究、分野横断的なアプローチによる研究、行政関係者や実践者からの論文を歓迎する。

なお、査読者には3週間以内での査読を依頼している。

## 2. 投稿資格

投稿にあたっては、筆頭著者は本会会員でなくてはならない。また、特集の企画責任者は本会会員に限るが、個別の特集論文の著者は非会員でもよい。

なお、学術誌編集委員会が寄稿を依頼した場合はこの限りではない。

## 3. 論文のカテゴリー

以下の論文のカテゴリーをおく。

- ①原著論文：新規性・独自性の高い学術的知見を提示する研究であり、設定した課題に対する考察および結論を得るもの（仮説検証）。また、必ずしも帰納的な仮説検証でなくとも、推論にもとづく一定の事実の検証によって、新しい観点から現象をよりよく説明できる仮説形成（アブダクション）を結論として行うもの。
- ②総説論文：特定のテーマについて先行研究の動向を独自の視点から整理して、総括や今後の研究の展望等を解説するもの。
- ③短報：新規性・独自性のある研究の結果を含

むもので、学術的に速やかな公表の必要性があるもの。

- ④事例報告：実践における社会的プロセスや技術的な工夫等を記述するもの（ケーススタディ）。事実関係に誤りが無いこと、論理的な記述であること、論述するテーマの限定と総括（結論）を行うことは必要とする。
- ⑤データペーパー：現地調査や資料調査によって得られたデータや資料、観察結果の記録、人文学・社会科学的なモノグラフ、会議等の議事録、インタビューの記述など、アーカイブとなるもの（データセットとメタデータの電子ファイルを含む）。データ等の取得方法やデータ構造、データの公開と共有の有益性の説明は必要とする。
- ⑥特集：特定のテーマについて、特集趣旨の論文とそれに関連する複数の論文によって構成される論文群。特集内の各論文の扱いは、投稿される①～⑤のカテゴリーに準ずる。また、特集の企画については別途「特集の進め方」を参照。

## 4. 査読

原稿を受け付けた後、査読指針に基づいて原著論文・総説論文は2名以上、短報・事例報告・データペーパーは1名以上の査読者による査読を行う。その結果に基づき、学術誌編集委員会が掲載の可否を決定する。その過程で、論文内容に不備な点がある場合には投稿者に修正を求める。投稿者は原稿を修正したうえで、学術誌編集委員長による指定期間内に再送付しなければならない。掲載不相当と判断された原稿は、その理由を明記して学術誌編集委員長が投稿者に返却する。その場合、投稿者は1回に限り、再査読を求めることができる。

## 5. 受理

受け付けた原稿は、学術誌編集委員長が掲載可と判断した日をもって、受理日とする。

## 【参考】各カテゴリーの特徴

(○は投稿カテゴリーを満たす上でより強く求められるが、他の要件があってもよい。)

要件	説明	投稿カテゴリー				
		総説	原著	短報	事例報告	データペーパー
体系性	既存の学術的知見に対する成果の位置付け	○	○	○		
網羅性	既存の学術的知見に対する新たな視点からの包括的な整理	○				
新規性	学術的な独自性や独創性のある知見		○			
信頼性	適切な方法や分析による学術的な確度のある知見		○			
速報性	短期的な調査や限定的な成果でも速やかな公開を必要とする知見			○		
有用性	実践、応用の現場で役に立つ技術や知見				○	
記録性	資料として公表し、共有する必要性や有益性がある知見					○

### 6. 使用言語

使用言語は日本語または英語とする。本文が英語の場合には、必要であれば学術誌編集委員会が日本語の要約を作成することもある。

### 7. 論文の長さ

短報は原則として8000字以内（図表を含めた刷り上がり4ページ）とする。その他のカテゴリーの論文の長さには原則として制限を設けない。

### 8. 原稿の送付

原稿は電子投稿で受け付ける。データペーパー以外のカテゴリーの論文は5MB以下でwordファイルまたはpdfファイルを作成し、電子メールに添付して学会事務局宛に送信する。

データペーパーにおいては、データ等の取得方法やデータ構造、データの公開と共有の有益性の説明についてはwordまたはpdfファイルとし、データ本体の電子ファイルとともに電子メールで送信する。ただし、ファイル容量が5MBよりも大きい場合には送付の前に学会事務局と相談する。

### 9. 原稿の書き方

別紙「原稿の書き方」、英語の場合には、Instruction for contributors in Englishを参照のこと。

### 10. 校正

著者校正は初校のみとし、再校以降は学術誌編集委員会が行う。

### 11. 著作権

論文の著作権に関する扱いや図表等の転載に関する扱いは本学会の著作権規約に基づく。

### 12. 論文執筆における倫理および関連法令の遵守

論文執筆に当たっては、人権の尊重やプライバシーの保護、差別的表現の排除、ハラスメントの防止に最大限留意しなくてはならない。また、研究倫理や関連法令を遵守した研究でなければならない。

### 13. データポリシー

データペーパーで公開されるデータセットおよびメタデータは、社会の共有財産として活用することを前提とする。したがって、データセットを利用して作成された二次成果物にも同様のポリシーが付与されなければならない。また、データペーパーのデータセットを利用する際には、元のデータセットの著者の許可を得て、出典の明示や謝辞を行うこと。

### 14. 規定の改正

この規定の改正は、学術誌編集委員会の審議を経て、理事会の議決によって行われる。

# 「野生生物と社会」原稿の書き方

(2021年4月1日)

## 書式：

原稿は縦長 A4 判用紙横書きとし原則として Word などのソフトウェアを用いて作成する。1 行 25 字、1 ページ 30 行とし、上下に約 3cm、左右に約 4cm の余白をとる。フォントは MS 明朝体とし、英数字は Times New Roman とする。

原稿は 1 ページ目に、表題、筆頭著者名（・第 2 著者名・…）、著者所属を書く。その下に、責任著者（コレスポンディングオーサー）の氏名と連絡先 E メールアドレスを書く。

2 ページ目に英文で、Title、First author（, Second author, …）、Institution を書く。その下に、Corresponding author と email address を書く。

所属変更の場合には、1 ページ目（和文）と 2 ページ目（英文）の著者名の右肩にアスタリスクをつけ、新所属を脚注として、それぞれ 1 ページ目と 2 ページ目の下段に配置する。

例：野生太郎 1\*

1 野生大学

\*現所属 野生研究所

3 ページ目に、英文要約（abstract）とキーワード（5 語以内、英単語、アルファベット順）を書く。事例報告およびデータペーパーにおいては和文の要約でもよい。要約のなかには、略号や頭文字語（acronym）を用いないこと。

4 ページ目以降から本文、注、引用文献、表、図の説明、図の順に配列する。

謝辞があれば、本文の末尾に書く。助成金などを明記したい場合には、謝辞のなかに含める。

原稿には、各ページ下部中央に第 1 ページから最終ページまで連続したページ番号をつける。また、原稿の左側に 5 行毎に第 1 ページから連続した行番号を入れる。

## 区分け：

材料・方法・調査地、結果、考察などを区分けする中見出しは、上下の 1 行を空けて、下に波線をつけて中央に配置する。さらに細分する小見出しは上の 1 行を空けて、同様に波線をつけて左寄せとする。

## 注：

本文への注は、本文該当箇所の右肩に通し番号を (1)、(2)、(3) のように記し、本文と引用文献の間に一括して掲載する。

## 学名：

動植物名は初出の際に、和名に続けて括弧内に学名をつける。学名は下線を引く。民俗学・民族学などの分野で地方名（vernacular name）や特殊な生物名を表記する場合にはこの限りではないが、なるべく学名に比定できるようにするのが望ましい。

## イタリック：

本文中では、原則として学名以外はイタリック指定をしない。SD、SE、p、n（サンプル数）などもイタリックとしない。

## 人名：

アルファベット表記の人名は第 1 文字のみを大文字とし、ロシア語、タイ語などの人名は、標準的な方式にしたがってアルファベット表記にする。中国語の簡体字表記などは日本で用いられている漢字を用いる。

## 文献の引用：

引用は、原則として公表されたものから行う。本文中の引用は「鈴木・田中（1971）によれば・・・」、「・・・明らかにした（足立ほか1980）」、「・・・研究がある（Hoffman and Taber 1960、Geist 1970、Gray et al. 1975）」などとし、出版年の順にする。同一著者の引用を並べる場合も

著者名を省略しない。著者名が3名以上の場合は和文では「ほか」、英文では「et al.」と省略する。

印刷中の文献の引用は和文の場合は(印刷中)、英文の場合は(in press)として記載し、投稿中のものは引用しない。

#### 文献一覧：

著者と発行年の両方が明らかなものを引用文献に記載する。それ以外のものは注に記載する。

本文中で引用した文献はすべて列記し、引用していない文献は載せない。文献一覧はアルファベット順に配列し、著者が同じ場合には、単独の著者名を発表年の古い順にはじめに置き、第2、第3の著者名のアルファベット順であとに続ける。

すべて同一著者で同一年の場合は、本文中の引用順に、発表年のあとにa、b、cをつけて区別する。著者が複数の場合、日本語表記の場合は「・」でつなぎ、アルファベット表記の場合は「,」「and」でつなぐ。

文献の配列は、以下の例にしたがう。

例：沼田 真 (1982a)

沼田 真 (1982b) 【同一著者の場合、-などで省略しない】

沼田 真・大沢雅彦 (1980) 【発表年は上記論文より古い、共著者がいるので後に配列する】

沼田 真・依田恭二 (1975) 【発表年は上記論文より古い、第2著者のアルファベット順により後に配列する】

田中政則・高橋誠一・大塚敬子 (1986)

王 祖望 (Wang Z.)・盛 和林 (Sheng H.) 【中国語表記の場合、名前の直後にアルファベットの綴りをつけ、筆頭著者のアルファベット順に配列する】

文献は形式から(1)学会誌、(2)単行本、(3)論集のなかの章、の引用に分けられる。欧文・和文を問わず、雑誌名は省略しない。またIbidなどの省略もしない。単行本で特定の箇所を引用する場合には、「単行本及び論集のなかの章」と同様に掲載ページを明記する。欧文雑誌名と欧文単行本書名は下線を引く。文献一覧は以下の例にしたがう。

#### (1) 学会誌

著者名 (発行年) 表題. 雑誌名 巻(号):掲載ページ.  
Authors (year) Title. Journal title volume  
(issue): pages.

藤本征司 (1993) 1977年有珠山噴火後の森林植生14年間の推移—特に高木類の対応パターン. 日本生態学会誌 43(1): 1-11.

Ohsawa, M., D. Suzuki and J. Kawano (1990) An interpretation of latitudinal patterns of forest limits in South and East Asian mountains. Journal of Ecology 78 (2):326-339.

#### (2) 単行本

著者名 (発行年) 「著書名」. 発行所, 発行所所在地  
Authors (year) “Title”. Publisher, Place of publication.

畠山武道 (1992) 「アメリカの環境保護法」. 北海道大学図書刊行会, 札幌.

Leopold, A. (1933) “Game Management”. Charles Scribner’s Sons, New York.

#### (3) 単行本及び論集のなかの章

著者名 (発行年) 表題. 「著書名」 (編集者名), 掲載ページ. 発行所, 発行所所在地

Authors (year) Chapter title. In “Book title” (Editors), chapter pages. Publisher, Place of publication.

樋口広芳 (1984) 種分化と資源分割. 「現代の鳥類学」  
(森岡弘之・中村登流・樋口広芳, 編), pp. 216-236.  
朝倉書店, 東京.

Gray, A. J. (1991) Management of coastal  
communities. In “The Scientific Management of  
Temperate Communities for Conservation” (Eds.  
Spellerberg I. F., F. B. Goldsmith and M. G.  
Morris), pp. 227-243. Blackwell Scientific  
Publications, Oxford.

#### (4) ウェブ情報

著者と発行年の明らかなものを引用文献に記載す  
る。それ以外のは注に記載する。

著者名 (発行年) 「記事タイトル」 (URL) xxxx 年  
xx 月 xx 日確認。

Authors (year) “title of web page”. (URL)  
Accessed yyyy-mm-dd.

農林水産省大臣官房統計部 (2017) 「平成 29 年度  
産麦類 (子実用) の作付面積 (全国) 及び収穫量  
(都府県)」

([http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/saku  
motu/sakkyo\\_kome/attach/pdf/index-33.pdf](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/saku<br/>motu/sakkyo_kome/attach/pdf/index-33.pdf))

2017 年 11 月 6 日確認。

Alaska department of fish and game (2017) “2017  
commercial salmon harvest summary” .

([http://www.adfg.alaska.gov/index.cfm?adfg=p  
ressrelease.pr10032017](http://www.adfg.alaska.gov/index.cfm?adfg=p<br/>ressrelease.pr10032017)) Accessed 2017-11-06.

#### 図 :

図 (写真を含む) は 1 点 1 枚とする。図は鮮明なもので、  
そのまま版下として使えるように、執筆者の責任で別紙に  
作成する (図表用の版下作成の必要が生じた場合には、執  
筆者が実費を負担する)。

既往の資料から作図した場合や既発表の図を転載する場  
合には、関係機関から許可を得たうえで、その旨を明示す  
る (例 : Harper (1975) より作図. 川村 (1982) より.  
など)。

図の別紙にはそれぞれ右上端に著者名と図の番号を示  
す。1 点のみでも図 1. とする。図の表題は本文を読まな  
くとも意味がわかるものとし、別紙にまとめて記載する。

#### 表 :

表は 1 点 1 枚とし、表題もあわせて記載する。表題は本  
文を読まなくても意味がわかるものとする。表は横線のみ  
とする。1 点のみでも表 1. とする。なお、表が横に長い  
場合、印刷の向きを横にすることがある。

#### 単位 :

単位はメートル法とする。民俗学・民族学などの分野で  
尺貫法など、それ以外の表現を必要とする場合にはこの限  
りではないが、メートル法に比定できるようにするのが望  
ましい。

#### データペーパーにおける電子ファイル (データセット) :

データペーパーの対応電子ファイルは以下の通り。

	拡張子	種別	MIME タイプ
1	asc	文書	text/plain
2	dvi	文書	application/x-dvi
3	htm	文書	text/html
4	html	文書	text/html
5	latex	文書	application/x-latex
6	pdf	文書	application/pdf
7	rtf	文書	application/rtf
8	rtx	文書	text/richtext
9	sgm	文書	text/sgml
10	sgml	文書	text/sgml

11	tex	文書	application/x-tex
12	texi	文書	application/x-texinfo
13	texinfo	文書	application/x-texinfo
14	txt	文書	text/plain
15	xml	文書	application/xml
16	bmp	画像	image/bmp
17	gif	画像	image/gif
18	jpe	画像	image/jpeg
19	jpeg	画像	image/jpeg
20	jpg	画像	image/jpeg
21	rgb	画像	image/x-rgb
22	tif	画像	image/tiff
23	tiff	画像	image/tiff
24	xbm	画像	image/x-bitmap
25	xwd	画像	image/x-windowdump
26	aif	音声	audio/x-aiff
27	aifc	音声	audio/x-aiff
28	aiff	音声	audio/x-aiff
29	au	音声	audio/basic
30	kar	音声	audio/midi
31	mid	音声	audio/midi
32	midi	音声	audio/midi
33	mp2	音声	audio/mpeg
34	mp3	音声	audio/mpeg
35	mpga	音声	audio/mpeg
36	ra	音声	audio/x-realaudio
37	ram	音声	audio/x-pn-realaudio
38	rm	音声	audio/x-pn-realaudio
39	rpm	音声	audio/x-pn-realaudio-plugin
40	snd	音声	audio/basic
41	wav	音声	audio/x-wav

42	avi	動画像	video/x-msvideo
43	iges	動画像	model/iges
44	igs	動画像	model/iges
45	mesh	動画像	model/mesh
46	mov	動画像	video/quicktime
47	movie	動画像	video/x-sgi-movie
48	mp4	動画像	video/mp4
49	mpe	動画像	video/mpeg
50	mpeg	動画像	video/mpeg
51	mpg	動画像	video/mpeg
52	msh	動画像	model/mesh
53	qt	動画像	video/quicktime
54	silo	動画像	model/mesh
55	vrml	動画像	model/vrml
56	wmv	動画像	video/x-ms-wmv
57	wrl	動画像	model/vrml
58	Z	書庫	application/x-compress
59	cpio	書庫	application/x-cpio
60	gtar	書庫	application/x-gtar
61	gz	書庫	application/x-gzip
62	lzh	書庫	application/octet-stream
63	tar	書庫	application/x-tar
64	zip	書庫	application/zip